

無形民俗文化財のデータベース化のための情報の 体系的記述に関する検討～浜松市における～

A Study on Systematic Description of Information for Database of Intangible Folk Cultural Properties -In Hamamatsu City-

杉山岳弘

Takahiro Sugiyama

静岡大学情報学部，静岡県浜松市中区城北 3-5-1

Shizuoka University, 3-5-1, Johoku, Nakaku, Hamamatsu, Shizuoka

概要：浜松市には、国・県・市に指定された無形民俗文化財を含め、古くから伝わる「祭り・神事・行事」が300件以上ある。研究室では浜松市と協同で、2014年から祭りについて情報収集を実施し、その成果として、2017年にお祭りのWebデータベースを構築して公開した。今回、無形民俗文化財の祭りに関するデータベースに掲載する情報を拡張するために、民族学の分野において体系化されたコードとして、人間の行動・習慣・生産に関わる資料を分類するためのコードである文化項目分類(OCM:Outline of Cultural Materials)を参照し、どの程度適合するかを検証する。また、浜松市の無形民俗文化財「西浦の田楽」「川名のひよんどり」「横尾歌舞伎」「遠州大念仏」「つなん曳き」について情報の記述を試み、無形であるゆえの問題点を明らかにしていく。

Abstract:Hamamatsu City has more than 300 festivals, rituals, and events that have been handed down since ancient times, including intangible folk cultural properties designated as countries, prefectures, and cities. In collaboration with Hamamatsu City, our laboratory began collecting information about the festival from 2014, and as a result, built and released a festival database in 2017. This time, as a systematic code in the field of ethnology, a code for classifying materials related to human behavior, customs, and production was used to expand the information contained in the database on the festival of intangible folk cultural properties. Refer to OCM (Outline of Cultural Materials) and verify the degree of conformity. In addition, we tried to describe information about Hamamatsu City's intangible folk cultural properties, "Nishiure no Dengaku", "Kawana no Hiyondori", "Yokoo Kabuki", "Tsunan Biki", and "Enshu Dainen Butsu".

キーワード：無形民俗文化財，民俗芸能，HRAF，文化項目分類

Keywords:intangible folk cultural properties, traditional folk entertainment, HRAF, outline of cultural materials

1. はじめに

文化庁は、平成30年度の文化財担当者連絡会議にて文化財保護法改正について発表している[1]。この趣旨の中で、「過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要。」と述べている（なお、この改正は平成31年4月1日から施行されており、詳しくは[2]に公開されている）。この改正では、未指定を含めた文化財までを範囲として、活用と継承の必要性を述べている点で大きな拡張と言える。本研究では、民俗文化財のうち風俗慣習（儀礼、年中行事、祭礼など）と民俗芸能（念仏踊、歌舞伎、神楽、

田楽など）、一般に「祭り」と称される中で行われる行事を対象としていく。

無形民俗文化財における未指定まで民俗芸能「祭り」の継承・活用を考えると、まずは地域における民俗芸能の全体の把握とデータベース化が重要となる[3, 4]。データベースとして、構造化の難しさや、こういった情報が必要であるかの議論はいくつかなされている[5, 9, 13]。本研究の立場としては、祭りに関する普遍的な情報や、目的に応じた必要な情報を保存するという立場ではなく、人の日々の生活の中で行われていく、無形であるがゆえに、時代の移り変わりに応じて、年々変化していく「祭り」を捉え、記録していきたいと考えている[5]。

本研究では、平成 28 年度の調査で、浜松地域の民俗芸能、主に「祭り」の全点調査を目標に、浜松市市民部文化財課と連携し、各所の地域協働センターと協力体制を作り、祭りの基本情報の収集と継承状況の調査を実施した。この成果をもとに、「浜松お祭りアーカイブ」を公開した[6]。

祭りに関するすべての情報を捉えることは難しいが、研究者が調べまとめた資料や関係者のインタビュー、様々な人が撮影した祭りの写真・映像といった断片的に得られる情報を、体系的にまとめあげ、参照できるようにすることはアーカイブとしても大きな価値がある。

本研究では、西尾らによる文献[5]の検証のため、浜松市の無形民俗文化財「西浦の田楽」「川名のひよんどり」「横尾歌舞伎」「遠州大念仏」「つなん曳き」について情報の記述を試み、無形であるゆえの問題点を明らかにし、体系化を行う上で必要となる課題を検討する。さらに、民族学の分野において体系化されたコードとして、人間の行動・習慣・生産に関わる資料を分類するためのコードである文化項目分類(OCM:Outline of Cultural Materials)を参照し、民俗芸能についての適合性について検証する。

2. 体系的記述に関する検討の概要

無形民俗文化財「祭り」に関わる情報は、無形ゆえに形がなく、さらに入手できる情報は断片的であることが多く、全体像を捉えることは難しい。また、口承により継承されてきた祭りも多く、情報の確実性に関わる問題も潜在している。そのため、一度、途絶えてしまうと、断片的な資料と経験者の記憶に頼らざるを得ず、その復活は困難を極める。そのため断片的で不確実な情報を、体系的に捉えることで、全体像として俯瞰して理解しやすくなる仕組みが重要となってくる。

2.1 神澤のおくないの事例

近年、多くの伝統芸能が消滅している。浜松市においては、浜松市天竜区佐久間町浦川に伝わる「浦川歌舞伎」が 2019 年 9 月を最後に終了している。1962 年に一度途絶え、1989 年に有志により復活させ 30 年ほど継続していたが、地元の人口減少と高齢化により継続を断念した。最近だと、2020 年 1 月において宮城県石巻市雄勝町名振で、約 240 年にわたり行われてきた県指定無形民俗文化財「おめつき」も中止となっている。

静岡県浜松市天竜区神沢では「神沢のおくない」が復興を果たして現在も継続してきている。神沢のおくないは、昭和 30 年代後半に完全に途絶えた

が、約 50 年を経て、平成 21 年に復興した。現在も、毎年 1 月 5 日に、中学生による舞がおくない堂で披露されている。神澤おくない同好会事務局の石野重利氏は、この祭りの復興にあたり、舞の所作や笛の演奏方法を記載した「神澤おくないの手引き」を作成した。

この手引の作成のために石野氏は、神沢のおくないに関する研究資料[7]、かつての舞手の意見、自身の記憶を元にしたという。ただし、資料は非常に少なく、ほとんどは舞手の意見を参考にしたという。また、衣装の記録がなかったため、類似した祭りを参考にしたという。以上のことから、この復興が可能であった理由は、舞手から当時の情報を得られたこと、周辺の類似した祭りの情報があったことの 2 つであることが言える。

この事例が示すのは、例え断片的であっても、祭りの情報を分かるうちに保存しておくことの重要性である。さらに、類似した祭りの情報を一体として体系的に俯瞰していくための仕組みが重要となってくる。

2.2 断片的な情報の記述に関する検討

本研究の先行研究である文献[5]をもとに、祭りのデータ構造を用いる。基本となるデータ構造を、本稿末尾の表 1 にまとめておく。祭りの変遷を記述する仕組みは、多くの情報を集めることができるある年(とし)の情報をマスターデータとし、これを基準として、その年の前や後の年毎に祭りの変化した部分をデータとして記述する[5]。

データを記述する年について、手に入れられる資料においては、資料の発行年や祭りの実施年といった複数の年があるが、祭りの実施年を基本として、対応する年のデータとして記述していく。多くの資料は、情報が断片的であるので、埋められる項目は限られており、まばらとなる。

この枠組みを使って、浜松市の 5 つの祭り：西浦の田楽、川名のひよんどり、横尾歌舞伎、遠州大念仏、つなん曳きに対して、断片的な情報を組み合わせて記述を試み、課題を明らかにしていく。実際に祭りに関して参照した資料(一部抜粋)は次の通りである。

西浦の田楽(国指定重要無形民俗文化財)

- 鑑賞の手引(冊子/1995 年/浜松市発行)
- 西浦田楽紹介サイト(Web/2018 年/杉山研究室)
- 西浦のまつり(写真集/1970 年/須藤功)
- お祭りデータベース(Web データベース/2017 年/杉山研究室)
- 遠江・山と里の民俗(DVD/2015 年/浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会)

- 水窪の民俗(書籍/2012年/遠州常民文化談話会)
- 水窪町史 下(書籍/1982年/水窪町史編纂委員)
- 撮影(映像・写真/2017年/杉山研究室)

川名のひよんどり(国指定重要無形民俗文化財※ 遠江のひよんどりとおくない)

- 静岡県の祭ごよみ(書籍/1990年/静岡県民俗学会)
- ガイドブック「遠江のひよんどりとおくない」
(冊子/2011年/遠江のひよんどりとおくない連絡協議会)
- 静岡県引佐町川名 福満寺薬師堂祭礼「川名のひよんどり」(冊子/作成年不明/川名ひよんどり保存会・引佐町教育委員会)
- インタビュー調査資料(テキスト・音声/2016年/杉山研究室)
- 遠江・山と里の民俗(DVD/2015年/松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会)
- 撮影(映像・写真/2016~2019年/杉山研究室)

横尾歌舞伎(静岡県指定無形民俗文化財)

- 静岡県指定無形民俗文化財 横尾歌舞伎(冊子/2015年/横尾歌舞伎保存会)
- インタビュー調査資料(テキスト・音声/2016年/杉山研究室)
- 遠江・山と里の民俗(DVD/2015年/浜松市等)
- 地芝居のある村(DVD/2015年/浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会)
- 撮影(映像・写真/2016・2017年/杉山研究室)

遠州大念仏(浜松市指定無形民俗文化財)

- 遠江・山と里の民俗(DVD/2015年/松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会)
- 調査資料(テキスト・写真/2015年/杉山研究室)
- 静岡県の祭ごよみ(書籍/1990年/静岡県民俗学会)
- 広報はままつ特集号(冊子/1999年/浜松市)
- 浜松市ホームページ内「遠州大念仏」
(Web/2013年/浜松市)
- 遠州大念仏保存会ホームページ「所属団体」
(Web/2018年/遠州大念仏保存会)
- 撮影(映像・写真/2017年/杉山研究室)

つなん曳き(浜松市指定無形民俗文化財)

- 遠江・山と里の民俗(DVD/2015年/松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会)
- インタビュー調査資料(テキスト・音声/2016年/杉山研究室)
- お祭りデータベース(Webデータベース/2017年/杉山研究室)
- 浜松鈴鈴2016年第1号(冊子/2016年/浜松鈴鈴)
- 撮影(映像・写真/2016・2017年/杉山研究室)

2.3 体系的に俯瞰する仕組みの検討

神沢のおくないの復興のときに、石野氏は類似した祭りを参考にしている。このような類似した祭り同士を結びつけて関連する情報を俯瞰するためには、単なるキーワード検索では不十分で、メタデータの設計が不可欠である。無形民俗文化財においていくつか検討がされている[8, 9]。今回は、直接的には踏み込まず、体系的な分類のための枠組みについて検討する。

文化人類学・民族学の分野では、HRAF(Human Relations Area Files: フラーフ)[10]という「世界中の様々な民族の社会や文化について書かれた文献(単行本、論文等)を、地域・民族別に集め、それらすべてのページの内容を専門家が独自の分類方法を使って分析したファイル資料」(Web ページ[11]より引用)がある。これを利用して、民俗芸能の様々な資料に対して分類することができれば、体系的に利用できるようになると考えられる。今回は、この HRAF の分類で用いられている OCM(Outline of Cultural Materials: 文化項目分類[12])について、民俗芸能に関わる項目がどの程度適合できそうかを調査する。

3. 情報の記述に関する検討

先行研究[5]で提案している、今回入力に用いるデータ構造を本稿末尾の表 1 に示す。データ構造に対する情報の記述に関する検討では、「西浦の田楽」「川名のひよんどり」「横尾歌舞伎」「遠州大念仏」「つなん曳き」の5つの祭りを対象に、実データを入力する。また、入力にあたっては、このデータ構造[5]の検証と同時に、祭りの経年変化を継続的に記録していくことを考慮して、祭りに関する調査補助を1年間実施した一般の人に、これまで研究室で収集した資料をもとに行ってもらった。

本データ構造[5]では、祭りの変遷についても記述をするために、充実した情報を持つ資料がある祭りを実施した年をマスターデータとし、そのマスターデータの年を基準として時を経て、もしくは遡り「変化した部分」について、その年を追加してデータとして入力する。また、必要に応じてデータ項目を追加、整理を行った。

以下については、入力者の報告をもとに作成してある。

3.1 西浦の田楽

西浦の田楽は、静岡県浜松市天竜区水窪町で行われている祭りで、観音堂境内にて旧暦1月18日の月の出から翌日の日の出まで、夜を徹して舞を主とした神事が行われる。その歴史は約1300年と

長く、国指定重要無形民俗文化財となっている。

1989 年に水窪教育委員会（現在は浜松市発行）が発行した鑑賞の手引をマスタデータとした。西浦の田楽は旧暦の決まった日に行われるため、毎年開催日が変わる。その変遷を記述するため、直近 4 年間の開催日の情報を入力した。

入力において問題になった点

資料中に図や画像があった場合に、どうデータの入力を行うかが問題になった。今回は備考欄に図等がある旨と該当ページを入力することで対応した。

今回マスタデータとした鑑賞の手引には、開催場所の住所や地図座標、文化財区分や伝承状況等についての記載がなかった。こういった、マスタデータに必要と思われるが不足している情報を、一部別の資料から抜き出した。

行事の区切り方について、日別、舞や演目別などいくつかの視点がある。また西浦の田楽については、舞の演目が 47 演目と多いため、今回のデータベースとは別に、舞を一体とした別のデータベースが必要と感じた。

西浦の田楽では演目ごとに使われる楽器や道具が異なる。楽器は楽器の項目に、道具は衣装の項目に入力したが、リストでは関連性が失われてしまい情報が減る。舞ごとにまとめた方が、情報を維持できると考えられる。

課題

マスタデータを複数の資料から作成することの検討（祭りによっては断片的な情報を持った複数の資料が存在する場合もあると考えられる）、どこまで詳細な情報を入れるか、また他のデータベースとの対応付けの方法も検討が必要である。

3.3 川名のひよんどり

川名のひよんどりは、同市内北区引佐町で行われている祭りで、火踊りがなまり伝えられたのが、ひよんどりの名称の起こりといわれ、400 年以上前から続く祭りである。厳冬の中、裸の若者が川で身を清め、堂の入り口で火に当たりながら揉み合いをする姿は圧巻であり、静岡県が無形文化財に指定されている。

マスタデータには、静岡県民俗学会が発行している書籍「静岡県の祭ごよみ」に収録されているデータを入力した。

入力において問題になった点

マスタデータを入力後、より詳細で網羅されている資料が分かった場合に、今回はマスタデータを基準に他の資料については差分を入力した。もしマスタデータとなる資料を変更した場合は、新

しいマスタデータを基準に差分を入れるとなると、今まで入力したデータを全部書き直す必要がある。より詳しい資料が出てきても、あくまで最初に定めたマスタデータを基準にすべきと考えられる。

西浦の田楽同様、説明画像の扱いが現状の枠組みでは困難であった。各舞や面、行事、エピソードなど各項目に画像の項目の追加が必要と考えられる。

作成年不明の資料がいくつかあった。一次資料としては扱えなくなるが、推定で書くことになる。

そして、行事と舞の対応付けをはじめ、資料の内容をどの項目に記述するかの判断が難しかった。

課題

西浦の田楽同様、マスタデータの基準の再検討が必要と考えられる。行事と舞といった複数項目の対応付けや、資料中の情報がどの項目に入るか判断するための一定の基準の検討が必要と思われる。特に祭りに詳しくない人がデータ入力を行うことも想定した基準の検討が必要である。

3.4 横尾歌舞伎

横尾歌舞伎は静岡県指定無形民俗文化財の祭りであり、同市内北区引佐町で行われている。発祥は定かではないが、保存する資料などから 200 年以前より盛んに上演されていたものと考えられる。この祭りの特徴は、役者・太夫・三味線弾きから、振付・着付・床山・大小道具・勘亭流の書体によるポスター作りに至るまで全て地域の人達の手で賄われていることである。

マスタデータには、平成 27 年度の公演資料と、同年に作られたと思われる祭りの説明資料を使用した。

入力において問題になった点

ときに内容が一緒くたになっている資料があり、どの項目に入力するかは適宜主観で判断しているのが現状である。

また、組織に関する情報の記述が少なかった。継承・活用という点では、組織に関する情報は重要であるが、公式な資料はあくまで祭りの紹介に重きが置かれており、内部のことまで触れられていることは少ない。内部のことはあまり外に出したくないという印象がある。

課題

川名ひよんどり同様、祭りに詳しくない人でもある程度判断できるための指針が必要と思われる。

3.5 遠州大念仏

遠州大念仏は市指定無形民俗文化財の祭りである。おこない自体は遠州地方の郷土芸能のひとつ

で、初盆を迎えた家からの依頼でその家の庭先で大念仏を演じる。市内全域で約 70 の組が保存会に所属しており、各地で祭りを行っている。一般向けには例年 7 月 15 日に中区の犀ヶ崖にて大念仏が行われている。

1999 年に市の広報課が公開した「はままつ歳時記 広報はままつ特集号」をマスタデータとした。
入力において問題になった点

遠州大念仏自体は、市内全域複数箇所で行われているが、公式な資料としては、一般向けに犀ヶ崖で行われているものしか見当たらなかった。

課題

複数の場所で行われている祭りの記述の枠組みの検討が必要である。

3.6 つなん曳き

つなん曳きは、市指定無形民俗文化財の祭りである。天竜区春野町犬居地区で行われており、その起源は、過去にこの地域で大洪水が起きた際に、2 匹の龍が村を守ったという伝説が基となっている。毎年祭り当日に、竹などで大きな龍を作り、それを地元の人達が担いで町内を練り歩くというものである。

この祭りでは公式と言える資料が見当たらず、過去に筆者らが祭りの主催者にインタビューを行い作製した地域情報誌「浜松鈴鈴 2016 年第 1 号」をマスタデータとした。

入力において問題になった点

遠州大念仏等にも言えるが、指定文化財の規模が小さくなるにつれ、一次資料に適した資料がない場合が多い。

課題

指定文化財等何らかの基準ごとに、入力の方針を変えることも検討したい。

3.7 情報の状態についての考察

今回以下の 3 つが挙げた。

- ・必ず変化する

→ある年の情報を追加すると必ず入力するもの参照年度や参考資料、開催日等がそれにあたる。

- ・変化することがある

→状況が変化した時に入力するもの
伝承状況や行事、アクセス情報等。

- ・ある年だけ項目に値が入る

→祭りの停止や中止、備考等。

(1) 空欄の意味付けの必要性

必ず変化するものは空欄になることはないが、問題となるのは空欄の項目である。年によって断片的な情報しか入手できないため、空欄には空欄

となった意味づけが必要となる。空欄が空白であるという情報は、変化がなかった場合と、情報そのものがなかった場合の両方の可能性があり、その情報の状態を表す情報を記録しておく必要がある。

(2) 入手状況による情報の状態

また、入手できた情報の状態は、研究者により調べられた資料から、教育委員会や有志によって作られて資料、さらに、祭り当事者が経験した情報、当事者が先代から聞いた情報、その地に残る言い伝え、といった真偽性のような情報を記録しておく必要がある。

(3) 複数の情報源の整合性の取り方

複数の情報源があるとき、異なる記述や、場合によってはどちらかが間違っている可能性のある記述があり、その整合性が問題となる。これについては西浦の田楽について当事者からインタビューを行い、検証を行っている研究がある[13]。

(4) 正確な場所の特定

祭りはある地域で行われるが、一箇所でおこなわれるわけではなく、複数の場所でそれぞれの行事が行われる場合もあるので、その記述を検討する必要がある。また、「祭り」の括り方によっては、複数の地域で、地域によっては別の日に、同じ祭りが行われる場合もある。これを地域に分けることで曖昧無く記述できるが、祭りの同一性を記述する手段が必要である。

(5) 日にちや期間に関する情報について

日にちについての問題は、すでに議論がされている[4, 9]。また、資料についても作成された日付が曖昧なものもあり、また、ある人がある人から聞いたとか、伝承で江戸時代に起こった事件など、期間が曖昧なものもある。これでもできるだけ曖昧無く記述すべきである。これについても仕組みを提案している論文がある[14]。

(6) 情報の入力について

祭りの記述の対応付け、情報の関連性の記述、同じ項目に複数の資料からの情報があつたときの判断基準など、検討すべき課題が多い。

(7) 情報の入手について

今回データ入力を行った 5 件の祭りについては、市レベルから国レベルまで、何らかの文化指定を受けているものに絞って入力を行った。しかし、文化庁の考え方では、未指定を含めた文化財までを範囲としている。過去に筆者らが行った、浜松市内全域の祭り全点調査では、未指定を含め 300 件以上の祭りが確認された。今回の 5 件の中だけでも、規模の違いによって、残っている資料の量や内容の粒度に大きくばらつきがあつたので、幅広く記録に残すためには、祭りの規模ごともしくは何らかの視点でデータ項目を複数パターン検討する必

要があると考えられる。また、継承・活用という点では、現存する資料から抜き出していくだけではなく、定義したデータ項目に沿って、祭りの主催者に積極的に聞き出していくことも必要と考えられる。

4. 文化項目分類の民俗芸能への適合性

項目の語彙として文化項目分類を検討した。文化項目分類の民俗芸能への適合性の検証については、表1のデータ構造の各項目について、文化項目分類におけるコードに対して、直接的(語彙の一致)・間接的(概念の一致)に関係するものを対応付けていき、どの程度対応付けられるかを試みる。実際のところ、世界の民族文化を対象としていることに対して、本研究の日本の民俗芸能に関しては対応付けられる記述は少なく困難であった。以下は具体例である。

- ・日付に対応するコード/名称が見当たらなかった(上述が理由と思われる)
- ・神輿や屋台といった地域独自のものは見当たらなかった(道具や建築の中に合いそうなものがあるかと探したが、やはり見当たらなかった)
- ・項目名としては合いそうだが、意味的に違う場合がある(例:206.04/組織と人員→「組織」と置き換えられるかと思ったが、大項目である206は「電話と電信」。例3:41/道具と機器が使えるそうと感じたが、工業活動に用いられる器物の種類であった)

しかし、いくつかは、本来の使い方として合いそうな名称はいくつかあった(例:別火に入ることの説明文に対して、264.07/食事行動に関する信仰や慣習など)。

文献・資料の体系的分類という観点から、HRAFについて調べていたが、祭りの体系的な扱いにはやはり民俗関係の辞典や資料から体系化を行い、枠組みとしてHRAFを参考すべきである。

5. まとめ

本研究では、無形民俗文化財における民俗芸能の持つ情報の体系的な記述のため、過去に提案したデータ構造に、浜松市の5つの祭りについて実データの入力を行い、空欄の意味づけの必要性、複数の情報源の整合性の取り方、入手状況による情報の状態など課題を明らかにした。さらに、祭りを体系的に分類して俯瞰するため、文化人類学の文献・資料の分類で用いられる文化項目分類を、民俗芸能に当てはめ適合性を検証した。結果、現段階ではあまり有効でなく、無形民俗文化財の分野における項目分類をまとめる必要があることが分かつ

た。今後は、さらに祭りに関する実データの入力を増やし、情報の状態を記述することができるデータベース・システムを設計・実装・検証を進めることと、民俗芸能の項目分類の作成を検討していく。

謝辞

本研究の一部は科研費基盤研究(C)19K12712の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 文化庁, 「文化保護制度の見直しについて」, https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/pdf/r1414902_01.pdf 2019年1月, (参照2020-01-22)
- [2] 文化庁, 「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律等について」, <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/1402097.html>, 2019年1月, (参照2020-01-22)
- [3] 浜松市例規集, 「浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例」, http://www1.g-reiki.net/hamamatsu/reiki_honbun/o700RG00001696.html, (参照2020-01-22)
- [4] 杉山岳弘, 戸田剛, 太田好治, 浜松市における無形民俗文化財「祭り・神事・行事」のデータベース化と継承状況の調査, 第23回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」, pp. 9-16, 2018.3
- [5] 西尾美沙季, 杉山岳弘, 「無形民俗文化財「祭り」の保存と継承に必要な情報とその変遷をアーカイブ化するための記述方法の検討」, 情報処理学会第78回全国大会, 4ZB-05, 2016.3
- [6] 静岡大学情報学部杉山岳弘研究室, 「浜松お祭りアーカイブ」, <http://www.hama365.info/archive/>, (参照2020-01-22)
- [7] 新井恒易: 中世芸能の研究, 新読書社, pp. 526-560 (1970).
- [8] 彦坂和里, 杉山岳弘, 「西浦田楽」の演目映像デジタルアーカイブ化に向けたメタデータの検討, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(じんもんこん2019), pp. 71-76, 2019.12
- [9] 佐藤いつみ, 高久雅生, Linked Dataによる無形民俗文化財情報の構造化の試み, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(じんもんこん2019), pp. 245-252, 2019.12
- [10] 稲葉洋子, HRAFと国立民族学博物館所蔵図書の分類, 情報の科学と技術, 第58巻, 第2号, pp. 64-70 (2008)
- [11] 国立民族学博物館, Human Relations Area Files (略称 HRAF フラーフ), <https://www.minpaku.ac.jp/research/sharing/library/search/hraf> (2020-01-22 参照)
- [12] G. P. マードック(他編), 国立民族学博物館(訳), 文化項目分類, 国立民族学博物館, (1989)

- [13] 彦坂和里, 杉山岳弘, 「西浦の田楽」の演目
映像デジタルアーカイブ化に向けた検討 ～演
目に関する複数年代の文献調査から見える課
題～, 第24回公開シンポジウム「人文科学と
データベース」, pp. 9-15, 2019.3
- [14] 関野樹, 時間名による時間参照基盤の構築-
Linked Data を用いた期間の記述とリソース化
-, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文
集 (じんもんこん 2019) , pp. 267-280,
2019.12

表1: 使用したデータ構造

メタデータ	情報の共通性	メタデータ	情報の共通性
基本情報		場所	
名称		名称(以下略)	
正式名称表記		住所	すべての祭りに共通
正式名称カナ表記		地理座標	
通称表記		備考	
通称カナ表記	すべての祭りに共通	アクセス	
type[分野]		種別	
language[言語]		始点	すべての祭りに共通
文化財区分		終点	
伝承		時間	
人数		備考	
date[日付]		エピソード	
開催日		要約文	すべての祭りに共通
新暦 開始日		詳細文	
終了日		引用元	
旧暦 開始日		道具 (一部)	すべての祭りに共通
終了日		神輿	
規則	すべての祭りに共通	名称(以下略)	
中止日		文化財区分	分類的に似ている祭りに共通
新暦(以下略)		説明	
旧暦(以下略)		備考	
理由		屋台	
臨時開催日		名称(以下略)	
新暦(以下略)		文化財区分	
旧暦(以下略)		形態	分類的に似ている祭りに共通
理由		彫刻	
組織		飾り幕	
名称(以下略)		所属町	
活動状況		説明	
説明	すべての祭りに共通	備考	
代表者		衣装	
構成員数		名称(以下略)	
組織図		文化財区分	分類的に似ている祭りに共通
備考		説明	
構成員		備考	
名称(以下略)	すべての祭りに共通	楽器	
説明		大太鼓	
備考		名称(以下略)	
参加者	すべての祭りに共通	文化財区分	特定の祭り固有
個人参加者		所属町	
名称(以下略)	分類的に似ている祭りに共通	大きさ	
説明		説明	
備考		備考	
参加町		音楽	
名称(以下略)	分類的に似ている祭りに共通	名称(以下略)	分類的に似ている祭りに共通
所属町		説明	
説明		備考	
備考		芸能	
行事		名称(以下略)	分類的に似ている祭りに共通
名称(以下略)		説明	
開催日		備考	
新暦 開始日時		画像	すべての祭りに共通
終了日時		映像	すべての祭りに共通
旧暦 開始日時	すべての祭りに共通	その他資料	すべての祭りに共通
終了日時			
規則			
場所			
対象者			
説明			
備考			